

神奈川大学主催
国際シンポジウム

インド・インドネシアを横浜から知る ー日本とアジア南部の歴史と近未来ー

3/28

金

入場無料

13:00～17:00

神奈川大学 みなとみらいキャンパス
1F 米田吉盛記念ホール

講演者



プラット・アブラハム・ジョージ教授
ジャワハルラー・ネルー大学（インド）
旭日中綬章受章者



フィティヤニ アンワル教授
ハサヌディン大学（インドネシア）



伊藤泉美 副館長
横浜ユーラシア文化館

プログラム

12:30 - 13:00

インドネシア・バリ島民俗楽器 バリ・ガムラン演奏（1Fエントランス）

13:30 - 14:10 基調講演

「深まってゆく21世紀の日印関係とインドにおける

日本研究・日本語教育の現状と課題」

プラット・アブラハム・ジョージ教授（ジャワハルラー・ネルー大学）

インドと日本の交流は、仏教が中国と朝鮮半島経由で日本に伝わった6世紀から始まったとよく言われるが、活発で実質的な相互交流が始まったのは第二次世界大戦後からで、冷戦時の横這いの状態を経て、1990年代から気力を取り戻し、現在の「日印特別戦略的パートナーシップ」の関係にまで至っている。講演の中では現在の日印関係およびインドにおける日本研究と日本語教育の現状について簡潔に話してから、その課題と展望について簡単にふれたい。

14:20 - 15:00 講演1

「日本とインドネシアの魅力: 文化と絆でつながる未来」

フィティヤニ アンワル教授（ハサヌディン大学）

日本人はインドネシアの親しみやすさを好み、インドネシア人は日本の規律を評価する。お互いの文化の違いを知り、相互理解を深めることで、経済協力も発展し、未来の関係強化につながるはずである。それを、自分自身や日本とインドネシアの友人たちの経験から考えてみたい。

15:15 - 15:55 講演2

「国際港都横浜におけるインド人の足跡」

伊藤泉美 副館長（横浜ユーラシア文化館）

国際港都横浜の繁栄を支えてきたインド人については、十分に語られてきたとはいいがたい。明治・大正期のインド人貿易商の進出と展開、関東大震災と第二次世界大戦の打撃・復興という歴史過程とともに、現在、横浜の地域社会に貢献するはまっ子インド人の存在について考える。

16:05 - 16:35 コメント

（一般社団法人横浜インドセンター ナリン アドバニ会長 他）

16:35 - 17:00 ディスカッション

アクセス

〒220-8739 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-5-3

- みなとみらい線「新高島駅」下車徒歩約4分
- JR・東急東横線・京浜急行・相鉄本線・横浜市営地下鉄「横浜駅」下車徒歩約11分
- JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」下車徒歩約12分

